

# 二〇一九年度を振り返って

理事長・編集長 宮田 和実

理事長になって、丸一年が経過しようとしていきます。

今までも、理事長代理として、全難聴の福祉大会の式典などに出席していますし、副理事長と理事長、副がなくなっただけで、それほど大きな違いはないと思っていました。しかし、そうではありませんでした。責任の重さ、これは、比較になりません。

例会などにしても、今までは、皆さんに楽しんでもらうにはどうしたら良いか？ などについて、気楽に考えていましたが、もし、何かあったら…と、ネガティブな部分まで、思考をめぐらさなければなりません。特に、最近、新型コロナウイルスの感染拡大が報道されると共に、会館などの使用が制限され、行事・イベントが次々と自粛を迫られると、決

行と中止・延期の間で心が揺れます。今のところ、みみより会員の感染情報は届いていませんが、

とは言っても、遠慮して、誰にも言わず、密かに入院している方がいないとも限らず、情報が届いていないだけかもしれないかもしれません。

今回の奇禍は、病気そのものだけでなく、それに伴う、禁止事項や自粛の要請などによって、様々な損害、迷惑などを生んでいます。

このような事態は経験がなく、思いもよらないことも種々起きています。想像を超えた御苦労をなさっている方も多々いらっしゃると思います。次号(七月号)では、それを特集したいと思っています。皆様の貴重な御経験を、是非、お寄せください。お願いします。

この騒ぎが起こる前までのみみより会の行事は、事業部、青年部、そして事務局の頑張りで、かなり充実したもので、

中止になった3月例会も、皆さんの生活にとっても役立つ内容だっただけに、残念でなりません。一日も早い終息を強く願っています。

皆様、どうぞ、くれぐれも御注意ください。

みみより会は、皆様御存知のように、一九五五年一月の創立、つまり、今年満六十五周年を迎えました。従来のように、盛大に祝賀会をという考えもありましたが、思い止まって良かったと、今は思っています。

六十周年の祝賀会パーティーの時に、「最後だから…」とおっしゃっていた方が数多くいらっしゃいました。「高齢のため、遠方からの参加は無理…」とあきらめた方も数多くいらっしゃいました。みみより会の創成期を知っていらっしゃるかたにとっては、パーティーへの参加はもう難しいかもしれません。

今後は、会場を借りての、五年毎の盛大な祝賀パーティーという形ではなく、質素に祝いたいと、宮田個人としては、

考えています。

取り敢えず、今年は、記念の刻印入りボールペンを会員の皆様全員にお送りしたいと考えています。これなら、パーティーに参加できない遠方の方も、共に祝うことができますから：

改めて、二〇一九年度を振り返ってみますと、まず、五月の総会で私と事務局長以外の理事が再任を希望されず退任し、新たに七人の新任理事が誕生しました。内お一人が、健康上の理由で、残念ながら途中辞任致しましたが、それでも、前年を上回る理事体制で、しかも、皆さん、バイタリティー溢れる方々ばかりです。で、理事会は活気に溢れ、毎月の例会は、会員の高齢化による減少によって、参加者は、さほど多くはありませんでしたが、充実したものでした。

これからも、楽しい催し物をいろいろ考えていきたいと思っています。

サークルなどの活動も、長い歴史を持つ茶道部とテニス愛好会が、未だに健在で、活動を続けていることは、とても喜

ばしいことで、加えて、新理事による新しいサークルもいくつか誕生し、活発に活動を始めた矢先の今回の出来事は、とても悔しい気持ちで一杯です。

編集長としては、六冊のみみより誌を発行しました。

いずれも、旧みみより誌よりも盛り沢山の内容を、旧みみより誌よりも遥かに安く製作しました。

つい最近、旧みみより誌の味蓼編集長の訃報に接したばかりですが、託された思いは、しっかりと受け継ぎ、期待された責務を果たしたと自負しています。

味蓼前編集長と言えば、何といっても、理事会や例会の後の交流会を思い出します。いつも日本酒を御注文になり、美味しそうに召し上がっていました。小生も酒好きを自負していますが、味蓼前編集長の前では、いつも小さくなっていたように思います。小生が陶芸家であることを知り、ぐい呑みやお猪口があったら持つてきて欲しいと言われ、いくつもお持ちしたところ、お買い上げ頂き、交流会

で早速、拙作の器でお酒を呑んでいました。いつになく美味しそうに呑まれていたのを、今でも思い出します。拙作の器は、焼き締めと言って、飲み物を美味しくする特徴があります。味蓼前編集長のような酒好きに使って頂いて、作者としても、この上なく嬉しい、感謝の気持ち一杯です。天国でも、美味しそうに、呑んでいらつしやることでしょう。心から、御冥福をお祈りしています。

みみより誌は現在、多額の寄付金に支えられて、旧みみより誌に引けを取らない形態のものを発行し続けていますが、会員の減少によって、総予算がかなりの圧縮を余儀なくされています。会費を値上げせずに乗り切って行きたいと思っておりますので、会員獲得には是非、御協力ください。コロナ問題が終息しましたら、例会に、お友達などをお誘い頂き、仲間を増やして行きましょう。

みみより会は、永遠に不滅です。

× ×

みやた かづみ(栃木県那須塩原市)